



編集発行所 山形市鉄砲町一丁目15-64 山形県立山形西高等学校 電話 0236-41-3504

同窓会の現況と 創立百周年に向けて

会長 大宮 文子



六月に間をおかず二つの台風が日本に上陸したのは前代未聞のことです。これからはどんな天候が来住するのでしょうか。又地上では無気味な事件が起こっていて胸を痛めています。

さて同窓会の現況を報告するに当たって、どんな点をまとめようかと思いましたが結局事実を追っての行事面から御報告いたします。先ず、去る三月一日の卒業生、二百九十四名を最も新しい同窓生としてお迎えしました。同窓会の命はこうして年々続いて行くのです。



青葉と赤いサクラランボのコントラストが美しい好季節となりました。

同窓会会員各位におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

本校の教育活動の充実・発展のため多大なるご支援とご協力を賜わり誠に有難く、衷心よりお礼申し上げます。

また、平成十年の創立百周年にむけて、会員各位に格段のご高配を賜っておりますことに重ねてお礼申し上げます。

さて、現在、校舎の一部と体育

先輩の私達は大変うれしく頼もしく思い歓迎いたします。

五月十五日に本年一回目の評議員会を開きました。議題は平成八年度の経常費と基本金の決算報告と同じく平成九年度の予算審議がありこのまま認められました。次に本年度の総会当番学年(S35年36年卒)の代表者から総会の予算企画等の議事が提案されて認められました。総会の日程は十一月八日(土)です。今から多くの会員の御出席をお待ち致します。それから母校の創立百周年の記念から母校の改築工事がすすめられております。卒業式や入学式は県民会館で挙行、PTA総会・嬰鳴交友会総会等は学年毎に開催するなどしております。九十周年記念事業により建設されました嬰鳴会館は学

年集會・保護者会などに頻りに活動決定しております。

ここで東京支部と嬰鳴女声合唱団に御礼を申し上げます。学年別の篤志寄付とは別に多額の篤志をいただきました。有難うございました。東京支部総会が六月二十二日(日)に東京プリンスホテルで開催されました。私と堤副会長が出席し、私の挨拶の中で篤志寄付に対する御礼を申し上げました。東京支部総会には素晴らしい盛会で三百人余の出席でした。最後のエンターテインメントはS44卒の「ジャズゆゆうき理トリオ」のジャズ演奏でしびれてしまいました。六月二十五日は母校の創立九十九周年記念日、白寿の日でございます。来年は百年です。この伝統の歴史、そこには様々な栄光と苦悩の歴史があり、今迄をふり振り返り将来を望んで、感無量の思いで祝辞を申し上げました。式典の後は全校生のクラス毎合唱コンクールがあり、若々しい歌声に満ちて楽しいものでした。このコンクールには同窓会杯があります。独創的で元気のクラスに授与されます。最後に同窓生皆様の御活躍と御健康とをお祈りし、日頃の御支援に対して心から感謝申し上げます。

好評を博したところであり、また、今年度の高校総体も終り、どの部も健闘いたしました。その中で、「登山部」三年間連続優勝、「なぎなた演技」優勝、八月京都で「なごみ」ハイに出席することが決定しております。

ごあいさつ

学校長 安食 和彦

用させていただきます。会員各位の教育環境整備へのご尽力に對しまして心から感謝を申し上げます。

部活動の練習も盛ならぬ状況下にありますが、管楽器部、演劇部、音楽部などの定期演奏会・公演は多くの方々に来館していただき、

団に御礼を申し上げます。学年別の篤志寄付とは別に多額の篤志をいただきました。有難うございました。東京支部総会が六月二十二日(日)に東京プリンスホテルで開催されました。私と堤副会長が出席し、私の挨拶の中で篤志寄付に対する御礼を申し上げました。東京支部総会には素晴らしい盛会で三百人余の出席でした。最後のエンターテインメントはS44卒の「ジャズゆゆうき理トリオ」のジャズ演奏でしびれてしまいました。六月二十五日は母校の創立九十九周年記念日、白寿の日でございます。来年は百年です。この伝統の歴史、そこには様々な栄光と苦悩の歴史があり、今迄をふり振り返り将来を望んで、感無量の思いで祝辞を申し上げました。式典の後は全校生のクラス毎合唱コンクールがあり、若々しい歌声に満ちて楽しいものでした。このコンクールには同窓会杯があります。独創的で元気のクラスに授与されます。最後に同窓生皆様の御活躍と御健康とをお祈りし、日頃の御支援に対して心から感謝申し上げます。

国立大一五〇名、公立大二〇名、私立大六九名、国公立短大二〇名、私立短大二名、専門・各種学校七名、予備校その他が四六名。このことについて、平成九年六月一六日発行の新聞に「躍進つづける進学実績」として「山形大学・新潟大学・千葉大学の合格者数は二〇〇二、三年より減ったが、何となく東北大学の合格者二十名(現役のみ)は、平成二年(現役三名、浪人五名)以来の快挙であろう。この数字は県内三位、東北六県でもベストテンに入るもので、本校の成績上位層の頑張りや如実に示しているものである。」とあります。生徒のチャレンジ精神を誉め称えたいと思います。最後に今年三月にご世界なされた庄司善助元校長先生の「ご福をお祈り申し上げごあいさついたします。

創立100周年が来年に迫りました



母校山形県立山形西高等学校も来年平成十年には創立一〇〇周年を迎えます。明治三十一年の創立以来、戦争や校舎の火災等、数々の困難を経ながら、その時代時代に学んだ在校生と先方、同窓生の皆様方の努力と協力によって、現在を迎えております。

- 一、創立一〇〇周年記念史の編纂
定期的な部会を開き、内容の検討を行なっております。旧職員でいらつしやる日野顕正先生、大塚浩介先生、鈴木實先生のお三方に執筆をお願いしております。
二、嬰鳴資料館の整備
創立九〇周年の折に整いましたが、尚一層の充実を目指しております。
三、記念式典の開催
体育館の落成を祝いつつ、新体育館で開かれる予定です。

今年九〇周年の折と違い、個人単位ではなく学年単位で協力する形になりました。各学年の目標額が二十万円、同窓会としての合計目標額が五百万円となっております。学年毎に事情も違い、何かと面倒をお掛けしておりますが、お除さまで、現在順調に集まっております。まだご存じない方は、ご自分のクラスの幹事の方と連絡を取っていただき、学年の集金方法についてご確認下さい。今年平成九年の十二月を目処としておりますので、母校発展のためのご協力を、よろしくお願ひ申し上げます。

←プール右側の第一体育館跡地に新体育館が建つ 旧理科棟跡に建築中の新校舎

解体の始まった第一体育館



“増生の宿”が新しい思い出になつて……

—平成八年度嬰鳴同窓会総会

平成八年度の嬰鳴同窓会総会は、十一月九日(土)恒例のオーヌマホテルを会場にして開催されました。暦も十一月と季節の変わり目、いささか足元の悪い天候ではありましたが、その中を早朝よりおいで下さった先輩の皆様方の笑顔がまるで少女時代を彷彿とさせるよう、きつとこの日を楽しみにしていらしたのだというのを我々当番学年一同確信し、身の引き締まる思いと喜びとが混じった心地よい興奮を覚えました。懐かしい恩師の先生方、級友、そして先輩と一堂にそれぞれの人生、生活を携えて会するのは不思議な感じがありませんが、旧交を暖め合いながらかつ、新しい思い出をつくる輪がそこかしこに広がっております。

定刻十時、総会の開始です。当番学年代表の高橋恭子さんの開会挨拶に始まり、大宮文子同窓会長、安食和彦母校校長のご挨拶をそれぞれ賜りました。

引き続き議事に入り堤佳子副会長により滞りなく進行していただきました。又、平成十年に控えた母校百周年記念事業関連報告書等、平成九年度同窓会総会当番学年挨拶も頂戴いたしました。

着々と司会者伊藤智子さん、丹羽新子さん(二名とも当番学年)により進行され、祝賀式典へとまわりました。この式典では、来賓母校新任職員紹介、米寿・喜寿祝賀者紹介及び代表挨拶、母校勤続十年表彰及び代表挨拶という式次第でございますがなかでも米寿・喜寿の祝賀者表彰が多勢としまして、板垣トキエ様ご両名の御挨拶を頂戴した時です。お二人とも戦前、戦中、戦後と激動の歴史をさりとかわす様に振り返りながら、しかも色鮮やかに話して下さい、時代に翻弄されながらも今日生きることの喜びを母校のおかげと逆感謝していただきましたこと、全員、心からの拍手でお祝い申し上げます。壇上で米寿の皆様の上からは最高潮に達したところでアトラクションへと一気に進みました。

アトラクションは我々当番学年の淀和恵さんが水谷真理子さんの伴奏でヘンデルの“なつかしい木陰”等数曲を豊かな音量あふれる声で独唱していただき、カルメンよ“ハバナ”で締めくくった後は満場の拍手を浴びました。

定例の庄司善助先生の元氣はつらつとした乾杯の音頭、恩師のスピーチに会場も緊張からいささか解かれ懇談へ。さらに石川純子さんの伸びのあるピアノ弾き語りや、なごやかなムードに花を添えます。最後に校歌斉唱となりました。昭和三十五年、五十二年卒業の私共当番学年はようやく仕事や子育てに一区切り着いてきたかな、社会生活にも小さくではあるけれども結果が出てきたかなと、周囲を見まわし始めた頃、この大役を仰せつかったわけですが、実行委員会をただちに結成し準備を進めて参りました。が、やはり大宮会長はじめ、栗野先生、校内理事、諸先輩方のお力添え、お心遣いなくして本会は遂行できなかつた心より感謝申し上げます。最後に、母校の益々の発展と会員、関係者のご健勝をお祈りし、総会のご報告とさせていただきます。ありがとうございました。(昭和五十一年西高卒) 阿部陽子

平成9年度 総会のお知らせ

とき：11月8日(土) 午前10:00～
ところ：オーヌマホテル (山形市)
会費：5,000円



嬰鳴同窓会総会

山形県立山形西高等学校
平成九年十一月八日(土) 午前十時
オーヌマホテル(山形市)



母の介護と

「わたげの会」と

(昭和三十四年西高卒)
神尾 智 江

痴呆症状の出で来た母が、動機に私の車を追いかけて立っている心細そうな姿がバックミラーに写る。母の介護のために仕事を辞めよう、そして母の役に立ちたいと思ったのが四年半前。

何ができるのか模索してひらめいたのが、在宅の方を応援するボランティアの会を作ること。さっそく、子育ての時から語り合った「たんぼほ」の七人の仲間相談し、学び合って一年後平成七年四月に会を設立。「わたげの会」と命名。仕事の中味は高齢者や障害者、困難を抱える家庭への在宅サービスで、掃除、洗濯、食事の支度など。会員制で、協力会員はボランティアの心を持った人が、時間を登録して自分のことで協力してくれる。又、気軽に利用できるように有償制にして、利用料の一部と会員の会費で会を運営している。



同窓生の活躍

会員七十九名、賛助会員八十九名。一人の力は小さくても大勢集まれば在宅での生活を支えることができる。設立して二年過ぎ、これが痴呆の母から私のプレゼントなのかもしれないと思う。母は、日中はデイサービスに行き、夕方から家族の中で穏やかに過ごしている。母の介護と「わたげの会」と、いつまでも続けていきたいと思っている。

是非一度お出かけください。

一方、勤務先の公立中学校で生徒に三味線の指導をしています。平成七年、博報児童教育振興会から教育、文化の分野の功労者に贈られる第二十六回博報賞と文部大臣奨励賞(伝統文化教育部門個人部)を戴きました。教育の分野で端唄、三味線の指導が認められ、評価されたことに大きな意義を感じます。



端唄に命燃やして
(昭和三十四年西高卒)
本間 紀久子
(根岸登喜穂)

江戸、文化文政期に大成し、江戸市中で流行、庶民の唄としてうたい継がれてきた端唄との出会い。二十六年、根岸流家元 根岸登喜子先生の舞台を見、端唄の普



(一番左が本間さん)

女子高生にタイムスリップ

「嬰鳴同窓会東京支部総会」

今年から日程を早め六月二十二日(日)、東京プリンスホテルにて嬰鳴同窓会東京支部総会が開催されました。梅雨の時期にもかかわらず当日は天候に恵まれ、また以前のマグノリアホールから一番大きいプロビデンスホールに会場を移し、三百九名の同窓生が集まりました。

お招きした恩師の川合俊一先生と佐藤正彦先生は、共に西高に長く在任しておられましたので沢山のテーブルからお声がかかり、当時の



今年から日程を早め六月二十二日(日)、東京プリンスホテルにて真を撮ったりと引っぱりだこので。現西高教頭の茂木源雄先生からは現在の様子を伺い、後輩の活躍を頼もしく拝聴し、「あの頃」の自分を思い出しました。

今年のエンターテイメントは昭和四十四年卒業生の結城美子さんが主宰する「ゆうき理トリオ」のジャズ生演奏でした。西高音楽部出身の結城さんの柔らかな歌声が心地よく、しっとりとした音楽に酔い

- 私共昭和五十五年卒業生は準備学年としてお話を戴き、初めての同窓会参加となりました。ほとんど連絡を取り合っていないが、人集めから始まり、不慣れなところを母親の世代ともいえる昭和三十三年卒業の方々に助けて戴き、また支部長はじめ会役員の皆様から準備に大変お世話になりました。微力ながら準備に参加させて戴いた事は大変思い出深いものとなりました。改めて伝統の重みと、伝統を伝える難しさを感じた一日でした。
(昭和五十五年西高卒)
- 高橋 清美
胸沢恵美子

ご冥福を お祈り申し上げます

- 工藤コト(昭3高女)
- 斎藤八重子(昭32西)
- 斎藤晏子(昭20高女)
- 喜嶋怜子(昭29西)
- 梅津絲子(大15高女)
- 小林ふさ(大15高女)
- 長岡 琴(昭14高女)
- 吉田勝代(大11高女)
- 志村貞子(昭10高女)
- 佐藤キヨ(昭14高女)
- 松本やす(大15高女)
- 田中美代子(昭30西)
- 熊谷真由美(昭60西)
- 小林安子(昭20高女)
- 竹田 梅(昭5女師1)
- 小林ヤエ(大5実)
- 芳賀伊都(大15高女)
- 鈴木てるよ(昭3高女)
- 佐藤トリイ(昭10女師2)
- 阿部敏子(昭20高女)
- 岩田タミエ(昭10女師1)
- 市村エツ(大14女師本)
- 吉田モト(昭16高女)
- 佐藤喜枝子(昭22高女)
- 樋口マサ(昭7高女)
- 柳橋カネ子(昭5女師1)
- 山岸王子(昭25四高)
- 蜂屋美代(昭14高女)
- 秋場江里(昭4高女)
- 岡崎久仁子(昭11高女)
- 高橋ヨシ子(昭3女師1)
- 金森キヨ(昭15女師2)
- 太田暁子(平6西)
- 富樫みどり(昭14高女)
- 伊藤和子(昭7高女)
- 山口三貴子(昭57西)
- 庄司善助(旧職員)
- 池田千代(旧職員)
- 荒井吉雄(旧職員)

心が通い合った「なでしこ会」

(昭和二十一年高女卒) 玉田アサ

昭和十七年四月に入学した私達の学生生活は、太平洋戦争と重なっている。二年生の三学期に火災で校舎を失い、惨めな気持ちで通学していたが、三年になってからは農家に勤勞奉仕にかりだされ、その後は今の西高の敷地に建てた日飛工場に動員されて、赤と



んぼと言われていた練習機造りに励んでいた。その当時ハンマーを振りやすりかけをしていた工場が現在体育館が建っている辺りである。このようにおよそ勉学とはかけ離れた学生生活を送ったのだったが、疎開してきた友と共々、喜びも悲しみも分かち合った者同志の絆は強く、一つ心で過ごした青春が今も鮮やかによみがえってくるのである。

卒業後五十年を経てこうして一堂に会してみると、そのたまたまの中に、それぞれの方がそれぞれの風雪を潜り抜けて、確かな歩みをなされてこられた様子がうかがわれて、胸が熱くなってくる。母校創立百周年を祝う募金にも快く協力していただき、その夜は舞踊や懐かしい歌声に包まれて、尽きない話にいつか時間が過ぎていったのである。

雅である。踊り手は丹野郁子さん。今年の「ふくの会」の開会セレモニーに華をそえてくださった。宴に入ってから、写真にもあるように次々と自慢の歌や踊り、太極拳等が披露され、大変にぎやかな学年会となった。時は六月八日と九日の一泊二日。場所は天童温泉の湯坊一葉。当番は五組。北は北海道、南は東京、神奈川県、五十一名の集いとなった。各部屋に入ってから、夜通し

わがクラス会

華やかに終わった「ふくの会」

(昭和二十九年卒業学年会)

平田洋子

孫の話、健康の話、老後の話、趣味の話等々とどまるどころを知らない。お互いに「元気」を吸収しあえる良い機会となった。一年おきの「ふくの会」。今回は再来年、当番はふり出しの一組に戻っていく。またの出逢いを楽しみにしたい。



かつばれ?



園生菊の舞



卒業三十周年

ランチクルーズ

(昭和四十二年卒)

前田 由美子

平成八年十一月十七日、快晴という天気にも恵まれ、私たち昭和四十二年卒業東京支部のクラス会は、日の出埠頭を出発するシンフォニー号に乗船して始めました。平成八年は卒業三十年という区切

りの年でもありましたので、これは是非記念すべきクラス会にしたというところも近くなかった多さで、いとの思いで、恩師の先生方に御出席をお願い申し上げましたところ、幸いにも全ての先生の御出席を賜ることができました。荒木務先生、柏倉先生、鈴木英一先生、菅井佑正先生、高橋勇先生、渡部康夫先生、小原正隆先生の七名の先生方と私達三十二名の支部会員とが一堂ならず一船に会し、船が進むがごとく、ゆるゆるとなつかしい三十年前の流れを逆走していったのです。私達の高校時代はベビーブームの只中にあり、何かにつけ競争の激しい時代ではありましたが、同期の西高生はどこかおっとりとしていて、山形県人の良さを充分に残していたように思います。今は、良き妻、良き母としてお子様の成長を見守っていらっしゃる方、またキャリアウーマンとして社会参加を見事に果していらっしゃる方、学校の先生として次世代を教育していらっしゃる方等、私達の世代は戦後民主主義教育の実践者として多様な価値観を持ち、それぞれの人生を信念を持って生きていくように見受



恩師をたずねて

鈴木 實先生

みのるちゃんがいっしょにね!

「恩師を訪ねて」久しぶりにお会いして思うことの一つに、何故現役高校生の時、素直に質問できなかったのだろうかという反省がある。日本史の基本的な疑問を卒業後も放つたらしにして、今更ながらオズオズと尋ねてみて改めてそう思う。

通算十七年の勤務、最後は西高を教頭として退職されてから十年。その後市の看護学校や予備校などで講師を続けられ、家庭裁判所の調停委員もなさっていると聞き、興味津々私の知らない世界をミィハーにも聞きまくる。怒るわけでもなく淡々と丁寧にお答え下さるその姿は昔のまま、「ミィルちゃん」であった。好奇心のままに、あつちこつちに話題は飛んで言いたい事を並べたててもあの笑顔で答えていただいているうちに、



「なアんだ。そうだったのかー。」と調子に乗ってしまった。調停は時には一日がかりになることもあり、テレビドラマとは違って地味な根気のいる仕事だとのこと。そのころは、今更ながら反省がある。このころは、今更ながら反省がある。このころは、今更ながら反省がある。

も先生方をお伺いしてみると、ずいぶん楽しくお答え下さいますヨ。(ホント) 末筆ながら、先生のご自宅には趣味のいい絵画、写真などが飾られ、香りのいい花々が据えられておりました。奥様の品のよさがうかがえたことを書き加えておきます。

(昭和44年卒) 清野和子
(昭和47年卒) 鈴木裕子

西高OG文化部展

●日時 1998年10月 ●会場 未定(文翔館が有力)

お知らせ 作品募集 校内幹事 鈴木裕子

職員動向

(転出)

渡辺 誠(事務局長 知事部局へ) 武田 憲和(事務局長 知事部局より) 森谷 栄久(主事 体育館主査へ) 石垣 江美(主事 知事部局より) 荒木 健郎(英語 寒河江工高へ) 和田 英一(理科 山形中央高より) 三澤 裕之(社会 教育センターへ) 吉田 洋(社会 榑岡高より) 伊藤 正宏(理科 谷地高へ) 飛鳥 陽子(体育 荒砥高より) 笹原恵理子(体育 新庄南高へ) 江口 稔(英語 講師) 洪谷 澄(英語 講師) 鈴木 裕子(美術 講師) 杉島 智立(社会 講師)

(転入)

後輩達の活躍

全国大会出場 放送部 七月 NHK全国放送コンテスト(東京) 放 送 部 八月 全国高校総合文化祭(奈良) 登 山 部 八月 全国高校総合文化祭(京都) なぎなた部 八月 全国高校総合文化祭(京都) 弁 論 部 八月 全国高校総合文化祭(奈良)

平成8年度経常費決算

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 決算額, 増減(△), 摘要. Rows include 収入の部 (入会費, 会費, 雑収入, 計) and 支出の部 (総会費, 会議費, 後援費, etc.).

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 決算額, 残額, 摘要. Rows include 支出の部 (総会費, 会議費, 後援費, etc.).

Table with 3 columns: 総収入, 総支出, 差引残高. Values: 2,075,593円, 1,802,227円, 273,366円.

平成9年度経常費予算

Table with 5 columns: 項目, 前年度予算額, 本年度予算額, 増減(△), 摘要. Rows include 収入の部 (入会費, 会費, 雑収入, 計).

Table with 5 columns: 項目, 前年度予算額, 本年度予算額, 増減(△), 摘要. Rows include 支出の部 (総会費, 会議費, 後援費, etc.).

平成8年度基本金決算

Table with 2 columns: 収入の部, 支出の部. Lists items like 前年度繰り越し金, 前年度経常費残, etc., with amounts.

Table with 2 columns: 支出の部. Lists items like 総会補助, 100周年関係(通信費), etc., with amounts.

3. 差し引き残高 9,083,297円

寄稿のお願い
本会報を飾る同窓生のみならずから原稿をお寄せいただいたたく、お願い申し上げます。

平成8年度会務報告

- 平成8年 4月8日 入学式
5月9日 平成7年度同窓会会計監査
5月16日 第1回評議員会
6月25日 創立98周年記念式・校内合唱コンクール
7月14日 東京支部総会(於:東京プリンスホテル)
8月10日 第1回クラス幹事会・第2回評議員会
11月9日 同窓会総会(於:オーヌマホテル)
平成9年 2月28日 同窓会入会式
3月1日 卒業式

平成8年度 維持会費納入状況

Table showing membership fee payment status for 1996 (平成8年度) and 1997 (平成7年度) for various classes (高女, 西高, 南高).

(1996年4月~1997年3月納入分 延197クラス分394,000円)

Table showing membership fee payment status for 1996 (平成7年度) for various classes (高女, 南高, 西高).

嚶鳴同窓会評議員

Table listing members of the alumni association council (評議員) with their names and class numbers.

